

福祉のまち梅津を目指して

——「一人じゃないよ見守っているよ」の輪を広げる——

高橋 岳 大

みなさん、こんにちは。今、ご紹介に預かりました京都市梅津地域包括支援センターの高橋と申します。今日はお時間をいただきましてありがとうございます。『福祉のまち梅津を目指して——「一人じゃないよ見守っているよ」の輪を広げる——』という題でお話をさせていただきます。高齢者福祉の仕事をしています。内容ですけれども、まず、私たちの業務を紹介させていただきます。高齢者福祉の仕事をしています。高齢者の相談窓口として、いろんな相談を受け、いろんな問題をどのように解決していくか、といった話をさせていただきます。出身は北海道札幌市です。大学が立命館大学で、そのまま障害者の入所施設に入職しました。そこで五年間働き、退職後、ケアマネージャーの資格を取りまして、平成十八年、今から

十二年前に京都市梅津地域包括支援センターへ入職をし、現在に至っております。縁がありまして、昨年から京都光華女子大学の非常勤講師をさせていただいております。医療福祉学科言語聴覚専攻の三回生です。今日参加されているのは一回生のみなさんだと思いますが、この中に言語聴覚を専攻される方がいらっしゃいましたら、三回生で私の授業を受けることになるかもしれません。「包括的ヘルスケア論」の四コマを担当させていただいております。

障りでも説明しましたけれども、今日の内容です。まず、高齢者のお話、その後、私の業務を説明させていただきます。その後、地域の孤立化を考えるとということでDVDを見ていただきます。最後に、私たちの今の取り組みについてお話しさせていただきますと思います。っております。よろしくお願います。

京都市の高齢者人口

まずは、京都市の高齢者人口からお話しさせていただきます。なぜ、こういった話をさせていたただこうかと思っているかという点、耳にしたことがあると思いますが、今は超高

高齢化社会と呼ばれています。世界的に見ても、日本は平均寿命が一位です。みなさん、高齢者って何歳以上かわかりますか。六十五歳以上を高齢者と言います。みなさんのおじいさん、おばあさんは何歳ぐらいですか。六十五歳ぐらいの方が多いですか。いや、「まだ五十代だよ」という方もいらっしゃると思いますが、基本的に、高齢者は六十五歳以上です。京都市の六十五歳以上の人口は、だいたい四〇万人で、全体の人口から見た割合は二七・二%です。二五%で四人に一人ですので、今日この中にはだいたい二〇〇人ぐらいと聞いていますけど、六〇〜七〇人が高齢者だと考えていただければと思います。※印（図1）で書いていますが、二七年度で八、六〇〇人、毎年このように増えてきています。そして、七十五歳以上の人口はどうかということですが、一九万、約二〇万人ですね。これも聞いたことがあるかもしれませんが、七十五歳以上を「後期高齢者」と言いますので、一つのワードとして覚えていただければと思います。総人口に占める割合は一三・二%で、だいたい一〇人に一人、もう、八人か九人に一人ぐらいは七十五歳以上になっています。

「行政区別の高齢者人口」も参考にしていただければと思います。みなさん、いろんな区から来られていると思いますけど、今、東山区が一番高い高齢者率になっております。

京都市の高齢者の状況

京都市の65歳以上の人口

京都市の65歳以上の人口は、400,485人で総人口(1,474,735人)に占める割合(高齢化率)は27.2%です。(平成28年10月1日現在推計)

※ 平成27年度比で約8,600人の増

京都市の75歳以上の人口

京都市の75歳以上の人口は、194,952人で総人口に占める割合は13.2%です。(平成28年10月1日現在推計)

図1 京都市の高齢者の状況

続いて「認知症の高齢者の状況」です。認知症という言葉聞いたことがあるかもしれませんが。医学の話、お医者さんの話、病気の話：は、テレビでもいろいろ取り扱っていますけれども、物忘れや、見えないものが見えてしまう、という高齢者認知症は、年々増えてきています。もしかしたら、みなさんのおじいさん、おばあさんの中に「認知症じゃないか」と言われている方もいらっしゃるかもしれません。

今、簡単にデータを見てもらいました。今は超高齢化社会ということで、高齢者の数がどんどん増えていきます。高齢者が増えていくにつれ、逆

に「少子化」とも言われています。みなさんのお年ぐらいでもそうかもしれませんが、高齢者になると、いろいろ大変なことが増えてきます。そういった大変なことを支えていくのが、みなさんたち若者になるんですが、お年寄りが増えて子どもたちの数が減ってきている、支える人口が減ってきていることが社会的な問題になっています。

地域包括支援センターとは

僕は、そういった社会的な問題を授業でやっていますが、授業の第一回目に、こういう質問をさせていただいています。「みなさんのおじいさん、おばあさん、道を歩いているおじいさん、おばあさんを想像してください。周りの方と話し合ってください。みなさんで、おじいさん、おばあさんの特徴をあげてください」。そしてみんなで話し合うんですけれども、「腰が曲がってる」「白髪」「うずくまってる」「杖をついてる」……と、いろいろな意見が出てきます。みなさんの想像するおじいさん、おばあさん像があると思います。今日も資料に「高齢者の特徴」として載せています。赤字で書いていますけれども、「関節や腰の痛み」「運動機能の低下」、先ほど説明しました「認知症」、「抑うつ状態」「老いや

死への自覚」など、心理的な部分も書いています。みなさんでしたら、今日ここは三階ですけれども、階段を、ダッシュまではいかないでしょうけど早足で上がってくることができるけれども、年齢を重ねてくると「腰が痛くて上がれへんわ」とか「息が切れてぜえぜえするわ」といったことが出てきます。今まで生活をしていてあまり問題に感じなかったことが、年齢を重ねるごとにちよつと大変になってきます。

みなさんの資料には載っていないですけど、おじいさん、Aさんです。「最近、足が前になくなって段差で躓くようになってきた」。高齢者になると、足の筋力が弱くなってきて躓くようになるんです。いろいろ病気も出てきて、「糖尿病が悪化してきたので、お医者さんから運動するように言われた」。次はBさんです。最近、悪徳商法、オレオレ詐欺、いろんな詐欺が流行ってきています。僕が昨日訪問したお宅でも、「怪しい電話かかってきたわ」という話がありました。「最近、訪問販売の業者が出入りするようになって困っています」。後、「腰が痛くて掃除が大変になってきた」。一人暮らしの方もいらつしやいます。「夫を亡くしてから話し相手もいなくて、毎日さみしいわ」。次はCさんの娘さんの場合です。みなさんから見たらお母さんになるかもしれないかもしれません。「お母さんが自宅に閉じこもりがちで、だんだん元気がなくなってきている」「最近、料理の最中に別のこと

をしていて、鍋を焦がしたことが何回かある」。今まではそんなことはなかったのにね。そんなこともあります。今度はDさん、みなさんから見たらお父さんになるかな。「父が肺がんとの診断を受けた。退院後の生活が不安だ」「父の身体が弱って寝たきりになってきている」「僕たちで介護ができるか不安だ」。

Aさん、Bさん、CさんとDさんは家族さんですが、さまざまな心配や困り事を感じておられます。家族で「どうしたらいいやろう」って、孫のみなさんにも「最近、じいちゃんも弱ってきて、ぼけてきて…」という相談があるかもしれません。「そんなこと言われなくてもわからへんわ。仕事のことですら一杯やし」。学生さんやったら「勉強のことで忙しい。どうしたらいいやろう」そういういった場合に、やっと私たちの話が出てきます。このような場合、どこに相談すればいいのでしょうか。答えは、お住まいの地域にある地域包括支援センターです。高齢者になると、たくさん困ったことが起きてきます。「でも、相談を受けてくれるところがないわ」相談できるところが地域包括支援センターです。

ちょっと難しいことをいっぱい書いているんですけども、一番下(図2)を見てください。「京都市では市内六ヶ所(主に中学校区)に設置しています。京都市から社会福祉法人・医療法人が委託を受けて運営をされています」。この中には他府県にお住まいの

地域包括支援センターとは

- 地域で暮らす高齢者を介護・福祉・健康・医療など様々な面から総合的に支援するためにおかれた相談窓口
- 専門職員が各専門分野の視点から連携し、一体的に支援をする
→ワンストップ機関と言われる
ちなみに・・・
- 京都市では市内61ヶ所（主に中学校区）設置
京都市から社会福祉法人・医療法人が委託を受けて運営をされている

（H28年度版 すこやか進行中から抜粋）

図2 地域包括支援センターとは

方もいらつしやるかもしれませんけれども、全国どこにでも地域包括支援センターはあります。この近くで言えば、大学を出て、西にちよつと入ったところに児童館と小学校があるんですけども、そこに葛野地域包括支援センターがあります。京都市の場合は、だいたい中学校区に一ヶ所あります。その中で私は梅津学区・北梅津学区を担当させていただいております。どんな仕事をしているかということは、また後で具体的に説明させていただこうと思いますが、詳しくは、うちのパンフレットを一番最後に付けておりまして、そこで紹介もさせていただいてお

ります。四職種あります。この中に看護学科の方がいらっしやるかもしれませんが、看護師さん、福祉学科の方もいらっしやいます。私もそうですけど、社会福祉士、ケアマネージャー、といった資格を持った方が働いております。このように、「何かあったら相談してください」と高齢者の相談窓口として、京都市から任せてもらって仕事をしております。僕が勤務している梅津・北梅津地域は六十五歳以上の高齢者が六、〇〇〇人住んでおられまして、その六、〇〇〇人の方を私たちが担当しています。さすがに六、〇〇〇人全員顔を覚えているわけではありませんし、名前を覚えているわけではありません。ただ、私も十二年間働いてきましたので、いろいろな高齢者の方と出会ってきました。最高齢では九十九歳で独り暮らしをされていた方にも出会ったことがあります。六十五歳ぐらいから寝たきりになって大変だという方もいらっしやいました。本当にいろんな高齢者の方と会ってきた中で最近感じるのは、今、社会は本当に便利になってきていて、一人で解決できる問題も増えてきていますが、高齢になって、それができなくなること地域から孤立してしまうということです。

それで、みなさんが今住んでいるところでもいいですし、田舎でもいいです。想像してもらって、「高齢者にとって住みやすいまちですか？」ということをテーマにさせてもら

おうと思います。先ほども言いました、私の授業では第一回目に「おじいさん、おばあさんにはどんな特徴がありますか？」という問いかけをしているんですが、第三回目にはこんな宿題を出しています。「みなさんの住んでいる家から、小学校、郵便局、銀行、整形外科、内科、大きな病院、スーパー、お寺や神社等観光スポットが、歩く距離にあるか「高齢者」になったつもりでまわってきてください」言語聴覚を取った方は三回生になったらこんな宿題が出ます。みなさんの住んでいる家から小学校は歩いて行けますか？ ちなみに、何で小学校かといいますが、一週間前に台風がありましたよね。すごい雨と風で、僕が担当している中には、アンテナが折れて次の日電気屋さんに来てもらったと、被害を受けた方もいらっしゃいました。避難する場所が小学校なんです。私の住む梅津学区でも、深夜二時半に「避難準備をしてください」と携帯が鳴りました。一応、二時半に職場に行って、地域の状況を確かめる準備はしました。だんだんと風が落ち着いて避難準備で終わったんですけど、他の地域を見ていたら「避難勧告」「避難指示」が出ていました。そういう時に、どこに避難しましょうと言ったら小学校なんです。その他の場所は分かると思います。郵便局、銀行は、手紙を出す、お金を出すところ。整形外科や内科は、高齢者になってきたら、必ずではないですけど通うところですよ。スーパーは買い物をする場

所、神社仏閣は観光する場所、ちよつと楽しむのある場所です。近くにありませんか？ そういう宿題を出させてもらいます。みなさん、すごい真面目なので回ってくるんですよ。万歩計を付ける方もいます。「小学校まで一万歩以内では無理でした」。地図を書いてくる子もいます。いろんな工夫をしながらこの宿題をもらうんですけど、なぜ、こんなことをするのかということですよ。

みなさんは、自転車に乗れます。バイクにも乗れます。中には車を運転できる人もいますけど、だんだんと腰が痛くて、膝が痛くて、状況判断もぶくなってきて…最近も高齢者の車の事故が増えてきていますけど、そういった時に不便なことが多いんです。行けなくなってしまうんです。行けなくなるといっていろんな障害が出てきます。中には誰にも頼めなくて、体もだんだん弱ってきて、気がついたら家の中で亡くなっていた、これは最悪な話ですけど、そういったことが起きています。まだまだ不便なことも多い地域の中で、また、これからの高齢化社会で、高齢者に求められることだけではなくて、みなさんたちにできること、みなさんが支援していけることは何か、というのが今日のテーマです。この中には将来、看護師を目指す方、言語聴覚士を目指す方、社会福祉士を目指す方もいらっしゃると思います。ぜんぜん違う業界に行く方もいらっしゃるかもしれませんが、高齢者

と関わる専門職になった時に何ができるやろうかということを考えていただいて、今日はレポートもあるとお聞きしましたので、感想を書いていただければと思います。

地域での孤立について

それで、少し深めてもらうために、今から二〇分ぐらいDVDを見ます。内容は「孤立死」です。地域の、郵便局、スーパー……に行けなくなってしまう、最悪亡くなってしまいう場合もありますけど、その「孤立死」が今、社会問題になっています。今から見てもありますけど、とても暗い内容です。ただ、すごく考えさせられる内容ですので、じっくり見ていただけたらと思います。

DVD上映

終わった時の何とも言えない雰囲気、毎回、同じです。今、「孤立死」というDVDを見てもらいました。結構ショッキングな話で目を背けたい内容もあったかもしれませ

が、これはアニメーションだけの問題ではありません。このような孤立死は実際に地域で起こっています。今年の夏は暑かったと思うんですけど、うちの地域でも二件ありました。お一人、地域の方もあまり関わりのない、むしろ関わりを拒否していた、このDVDに出てた孤次郎さんみたいな方がいらっしやいました。毎年、一、二件あるんです。ちなみに「孤独死」という言葉もあります。独り暮らしの方が誰にも看取られることなく亡くなったとか、僕の友人にもいるんですけども、お父さんが一人でお風呂に入っている時にたまたま外出して、帰ってきてたら、お父さんがお風呂で亡くなっていた。普段は一緒に過ごしているんですが、看取られることがなく亡くなった場合も「孤独死」という言葉を使います。「孤立死」は、社会的孤立、今の孤次郎さんのような、人との関わりを拒否して、発見されたのが亡くなった一ヶ月後。においもしてた、虫もわいてた…というような状況を言います。これが最悪のケースなんですけども、孤立した高齢者は増えてきています。

認知症等、病気が原因で周囲が関わりを拒否する、関わり方がわからなくて周囲が避けていく方の中にはいらっしやいます。精神的な病気になると、見えないものが見えてしまつて、周りに訴えるんですね。「盗聴されてるねん」「周りの人が覗くねん」「ストーカー

に追われてるねん」。いや、そんなことありえへんやんって、うちが相談を受けるんですけど、そういった方はもともとそういう病気をもちなので、「お医者さんに通って、薬を処方してもらって…、そうすると、また地域との関わりができるようになりますよ」とこちらが支援することもあります。認知症もそうです。一部分、物忘れがある。そういう病気だと知っていたら関わり方がわかってきます。「こういうところを本人を安心させるようにもっていったら、家族や地域の方も関わりやすくなりますよ」という支援もしています。昨日、テレビで「ごみ屋敷」やってましたけど、高齢者には家をごみ屋敷の方もいらっしやいます。実は今日の午前中に、ごみ屋敷の方と地域とどう関わっていきましようかということで、関係者で集まって、「ヘルパーさんにもうちよつと入ってもらって片付けましようか」という話もさせてもらっていました。

後、高齢者虐待です。家族が介護に疲れてしまったり、殺してしまったり、最近ニュースにもありました。介護疲れで、叩いてしまったり、罵声を浴びせてしまったり、そういうケースもあります。後は、認知症になられて外出したところ、帰れなくなって、周りを徘徊してしまうこともあります。精神的な病気とか、お酒に走る方も最近が増えてきています。アルコール依存症による近隣トラブル等々、いろんな社会問題があります。そうい

う相談を受けて、どうしようかという話し合いをしています。孤立した方が増えないようにするにはどうしたらいいか。いろんな場所でこのDVDを、もう三〇回ぐらい流して、僕の授業でも流して、考える機会を持っています。

梅津地域包括支援センターの取り組み

僕らの顕著な取り組みとしましては、梅津にお住まいの方の住民研修会をやっています。元々は、介護保険制度とか、認知症、介護予防について、もっと知りたいという声が集まってきたのがきっかけなんですけど、本年度は、四月から始まって二ヶ月に一回、五回コースで開催しています。先週の土曜日に第三回目を開催しましたけど、第四回が二月二日です。地域のお医者さんをお呼びして介護予防のお話をしてもらうことになっています。これが写真(図3)です。畳の部屋で私がしゃべっています。第二回目はヤスオおじいちゃん物語。これは認知症のお話です。第三回目は介護予防がテーマなので、脳の体操、指の体操をしました。そして、第四回目のポスターを貼ったり、「みんな来てくださいね」とチラシを配ったりしています。五回目が一月一七日です。こういうふうに宣伝を

住民研修会第1回目



図3 住民研修会第1回目

しながら地域の住民の人たちに、いろんなことを知ってもらって、学んでもらって、学ぶだけで終わるんじゃなくて、その先を一步踏み出して行こうとしております。

今回は第一回目のことに関して説明しようと思います。「地域での孤立」まさに今回のテーマです。みなさんと同じようにDVDを見てもらいました。そして、参加した人たちに聞きました。「①ご自身が孤立しないためにできることは何ですか?」「②ご自身が孤立しないためにしてほしいことは何ですか?」「③誰かを孤立させないためにできることは何ですか」。ご自

身のこと、誰かにしてほしいこと、こちらが孤立している人のためにできること、の三点をテーマとして挙げました。KJ法はあまり聞き慣れない言葉だと思いますが、よくグループ討議をする時に使う手法です。それぞれ、ピンク、黄色、水色のカードに記入して、みなさんに書いてもらったものを前に貼りだして、同じキーワードを一つにくくって、みなさんに見てもらったりしています。ご自身としては、「近所の人と挨拶をする」「家族、友人と会話をする」「趣味を作って出かける」「町内行事に参加する」という意見が出ていますし、孤立しないためには、「気軽に声をかけてもらいたい」「さみしい時に話を聞いていただきたい」「とりあえず、行事等に誘ってほしい」とか、一番面白いなど思ったのは、「家の前の状態がいつもと違う時（花が枯れてる等）は訪ねてほしい」、もしかしたら自分の体に変化があるんじゃないか、気づいてほしいという意見もありました。そして、誰かを孤立させないためにできることは、「声をかける」「気に掛ける」「見守りの体制をつくる」「ボランティアに誘う」「相手の趣味に関して話をする」「町内会に入っていない方の再加入をすすめる」、一番最後に赤字で書いています。「近所に居場所をつくる」ここが重要なポイントです。

ここから派生して、最後にこんな質問をします。「地域での孤立を防ぐため高齢者にと

って皆さんはどのような居場所が地域にあればいいですか？」今度は黄緑のカードです。みなさんに居場所がありますか？ アルバイトをしている人はアルバイトが居場所だったり、サークルに入っている人はサークルが居場所だったり、家族と過ごす場所が居場所だったり、お友だちと過ごすことが居場所だったり、いろいろあると思うんですけど、なかなか居場所が見つからない方はたくさんいます。自分の心地居場所はどこやろう？ みなさんにとって、どんな居場所があればいいですか？ 参加者から出た意見です。「誰でも気軽にいつでも立ち寄れる場所があればいいのでは？」「話のできる場所、お茶のみ広場がよい」「町内会（会）ごとにカフェのような場所があったら」「カラオケや野球観戦、オセロ、将棋、麻雀等」これなんか男性の意見ですよ。「高齢者だけでなく色々な人がいて話せるところ。子どもたちに本を読んだり、遊びを教えたりできるところ」「空き家とか活用できないか」空き家も今問題になってきています。シャッター街も最近が増えてきています。ちなみに、今日ここに来る前に喫茶店で「どんな話をしようかな」と資料を見てたんですけれども、その喫茶店には将棋仲間がいて、将棋を打っていました。そこも一つの居場所なんやなあと思いながら見てました。

ということ、地域の孤立を防ぐ方法の一つとして、そういった居場所があればいいな

という意見が挙がっております。例として、健康体操、すこやか学級、老人クラブ、オレンジカフェ等です。聞き慣れない名前もありますが、そういったものをこれから作っていきましようという流れがあります。そして実際にあります。「おれんじサロン梅津 梅カフェ」という高齢者の集まる喫茶店を、二ヶ月に一回、日曜日がお休みの地域のデイサービスを利用して開いています。催しものをしたりもしています。これは地域の役員さんたちが開催する「すこやか学級」です。ここも大勢が集まってわいわいしています。「梅津なしこ会」です。格好いいですよ、ななしこ会。体操をする場所です。日頃から体操をして介護予防をしましようということが集まっています。ここは銀行の二階かな？ 場所を借りてやっています。

これは新しい「pandaのマグカップドリムプロジェクト」です。台風の影響で一週間延びてしまつて、明後日の日曜日に。高齢者の方つて、昔はいろんな趣味とか特技があつたんですよ。裁縫、洋裁が得意やつたり、キーホルダー作りが趣味やつたり、実は歌を歌うのが得意やつたり。そういう方たちが「最近、機会がなくなつてきたわ」「披露する場所がなくなつてきた」。じゃあ、披露する場所を提供しましようということ、今回初めてつくりました。すこいですよ。プロ並みの腕を持った手芸作品とか、自分で作つた着

物とかね、プロ顔負けの写真を撮ってる方もいらっしやいます。その方たちに、日頃の活力にしてもらうための取り組みも開催しています。

ということ、どんどん居場所づくりが増えてきています。すぐにでも過ごせる場所、活躍のできる場所を、これからもどんどん作っていきましようということで、僕たちも地域の方たちとお話をしながら取り組んでいます。

こんな感じで地域では居場所作りが始まり、たくさんの方が気軽に参加できる場所が増えてきています。これからもどんどん作っていきましようという話になってきていますが、ちょっと振り返っていただきたいんですが、先ほどのDVDの主人公の孤次郎さんは、この地域の居場所に「行きましようよ」とお誘いしたら参加することができると思いませんか？ 僕の感じる限り、答えはおそらくノーです。人との関わりを拒否していた孤次郎さんは、たぶん行かないと思います。ですので、僕らはもう少し小さな、例えば、孤次郎さん限定の会議を開くんです。老人福祉員さんも「孤立死があつて。以前から訪問を拒否していた方だったので、どんな生活をしているか気付かなかった…」、民生委員さんも「実は同じ町内でもあつたんや…」「どう解決していこうか？」ということ、僕たちは関わり合いのある人を集めて会議をしています。「孤次郎さんが他者との関わりを煩わしい

と行って拒否します。昔はそんなことなかったのに」「最近、咳をしているのを頻繁に見かける。病院にも行ってないみたい」「いつもぼろぼろの服を着ている」「この間、道で転倒しているのを見かけた。心配やわ」住民から相談がかかります。「孤次郎さん、どうしましょうか」「じゃあそれぞれ役割を決めてやってみましょう」と、チーム構成を取りまします。気軽に話が出る方、昔から知ってる方、介護保険等専門知識を持った方、家族：それぞれの立場で孤次郎さんに声かけをします。孤立していた孤次郎さんにも気持ちの変化が出てくるかもしれません。これが、一週間、一ヶ月で解決することもあれば、一年、二年かかる場合もあります。支援の輪を作って、話し合いながら関わるといふ仕事を僕らはしています。「ゴミ屋敷や。汚いわ」。何でゴミを集めるようになってしまったのか、どういふ支援をしたら本人が安心して生活を送ることができるのか、そこまでを僕らは追究します。ただし、本人の価値観を無視してはいけません。みなさん、いろんな思いがあるんです。例えば、孤次郎さんにも孤次郎さんの思いがあります。「このまままやつたらホントに死んでまうで」「これは病院に行った方がええで」と多少強引な手も使いますけど、その本人の思いに寄り添って、支援の輪を作って、僕らは関わっています。何だかんだいいなながら支援や関わりを拒否していた方も、何となく関係ができてきたら、「こうしてみ

ようかな」「そういう所があるんやったら、行ってみようかな」「あなたがそう言うんやったら行こうかな」ということになって、次第に本人の居場所ができていきます。

また、高齢者の徘徊も増えています。そこで、「事前登録制度」を地域に広めて、「認知症の人が迷っています。どういう声かけをしますか？」という模擬訓練もやっています。

最後にまとめに入ります。地域に孤立した高齢者がいらっしやいます。そのための取り組みの話をさせていただきました。地域全体で、みんなが通いやすい居場所、活躍ができる場所を提供しています。個別での取り組みとしては、チーム孤次郎さんの話もしましたけど、孤立している、孤立の恐れのある方への見守り・声かけ支援を行っています。高齢者になると生活するうえで大変なことが増えてきます。DVDに出てきた孤次郎さんも、支援をしていたら、もしかしたら孤立死せずすんだのかなとも思います。少しでも安心して暮らせる地域を目指して私たちは活動しています。

時間になりましたので私の話は以上です。最後に、非公認のゆるキャラ(図4)です。ありがとうございました。



図4 梅津地域包括支援センター非公認ゆるキャラ「うめはに」